

5月14日(月)

全 て の く す し き み わ ざ

聖書朗読 詩篇 147編

わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。

わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。 詩篇 103:1~2

皆さんは最近、感動のあまり目が冴えて眠れないことがありましたか。私はそのようなことがありました。昨秋のある日、学校を出ると、ガチョウの鳴き声が聞こえたので探してみると、互にくっついたり離れたりして隊列を組んでいるガチョウの群れを見つけ、また同じ日、地面に目をやると、桑の葉が山となって落ちていました。これらのガチョウや自然はどのようにして神様からのメッセージを受け取るのでしょうか。さらに、アスファルトの新しい舗道を歩いていると、沢山の蟻が集まっている蟻塚を発見しましたが、その蟻塚の驚くべき構造に驚嘆しました。また今週、友人の小さな赤ちゃんが心臓切開手術を受け、空を見上げるとジェット機が白い綿のような軌跡を残して舞い上がって行くのを目にし、5歳の幼い子が暗唱した詩篇23篇を聞く機会がありました。

また、雑草が氷に覆われ、朝日に照らされてダイヤモンドのように輝いていたその美しさは、私の目に焼き付いていますし、想像したほどの見ごたえではありませんでしたが、ハレーすい星がやって来たことも覚えています。

この宇宙を想像された神様は、私たちとともに、私たちの内に、そして私たちの傍にいてくださいます。こうした様々な御業よりもさらに驚くべきことは、私のようなものを愛し、すべての罪を赦してくださったという事実です。神様の測り知れない素晴らしい御業を遠くに感じるとき、それは自分の魂が眠っている時なのかもしれません。

讃美歌 17

祈り 誉れ高き父よ。あなた様のなさる御業にあなた様を見出すことができないとき、どうかお赦してください。あなた様の聖なる御業とご慈愛を畏れの念をもって拝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

今日の力

2018年5月14日～5月20日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶ノ水キリストの教会

メアリー・ジョー・クレンデニン 1987

5月15日(火)

魂の天気

聖書朗読 詩篇 119 : 25～40

主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、主のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。 詩篇 19 : 7

ユタ州のブライスキャニオン国立公園の見事な形状と色合いは、その土地の過酷な気候によって生まれたものです。焼け付く暑さと激しい降雨が土壌を侵食し、その結果あの息を飲むような岩の彫刻が生まれました。

私たちの魂も同様に、人生の様々な天候によって磨かれていくのではないのでしょうか。失望によって干ばつの様な心の渇きを覚え、大洪水のように涙が溢れる悲しみがあり、また、結婚も新鮮さがなくなり、仕事も同じ事の繰り返しでやりがいがないと感じることもあるでしょう。そのような時私たちは、心が飢え渴いていると感じます。さらに愛する人の死、友人の裏切り、こうしたことの連続で、涙で溶けてしまいそうだと思うこともあるでしょう。

詩篇の著者は、人のこうした心の渇きを良く知っており『私のたましいは悲しみのために涙を流しています。』（28節）と語っていますが、彼は魂が嵐に打ちのめされたとき、どこに目を向けたでしょう。それは神のみことばです。冷たい雨が焼けつく大地を冷やしてくれるように、神のみことばによって魂を回復させていただき嵐に立ち向かう強さを得ることができたのです。

神様のみことばは、人生を破滅に向かわせるような経験から素晴らしいものを生み出してくださり、私たちを作り変えてくださいます。詩篇の著者は、様々な人生の荒波を経験し、「私は、あなたの戒めを慕っています。どうかあなたの義によって、私を生かしてください」という祈りに至っています。

神はあらゆるものを

必ず良いものへと造りかえてくださる。

——George MacDonald

讃美歌 519

祈り 主よ。私たちを造りかえて、あなた様に似た者としてください。
イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ビリー・シルビー 1987

5月16日(水)

感謝の喜び

聖書朗読 詩篇 33 : 1～11

全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。

感謝しつつ、主の門に、讃美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。 詩篇 100 : 1, 4

エクアドルに住むケチュア族とコロラドインディアン族の言語には、「感謝」を表す語がありません。ウィクリフ聖書の翻訳者たちが、翻訳に苦勞して取り組んでいたとき、この二つの種族の言語には感謝を表す概念や語が存在しないことに気付かされました。お礼や感謝の気持ちを表現するというのは、彼らにとって異国の概念だったのです。

感謝の思いを表現することは、幼子の成長の証の一つではないかと思います。幼子には感謝の概念がなく、彼らは、目の前にあるものをただそこにあるものとして捉えています。食べ物や着る服が目前にあり、住む家があり、全てがただそこに存在するという認識しかありません。けれども、子どもが「有難う」と言ったとき、それは成長を感じさせるものではないのでしょうか。そしてそれはただ肉体的な成長の印のみならず、魂の成長でもあると思います。さらに、感謝は喜びへと向かう第一歩だと思います。

喜びがないときというのは、感謝の思いが足りないときではないのでしょうか。そして、感謝の思いが足りないときというのは、神を称え神に感謝すべき多くの恵みに目を閉ざし、不平不満を言っている時なのだと思います。

讃美歌 13

祈り 父よ。つまらないものを追い求めることをやめ、ご慈愛に富んだあなた様の御手に目を留めることが出来るようにしてください。あなた様が与えてくださったすべての良い物を、当たり前のように受け取ることがないようにしてください。父よ、あなた様のご臨在とあなた様の成して下さったことを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

スティーブ・ルイス 1998

5月17日(木)

み　こ　と　ば　の　力

聖書朗読 詩篇 119：9～16

あなたのことばはつまずく者を起こし、くずおれるひざをしっかりと立たせた。

ヨブ 4：4

ヨブが周囲の人たちにかけた優しさに溢れた励ましの言葉は、彼らの信仰、希望、そして勇気を奮い立たせるものであり、それによって彼らは、日々の苦難に立ち向かうことができたのです。エリファズは、ヨブ自身がこれまでどれほど周囲の人たちの魂を奮い起こしたかを、彼に思い起こさせようとしています。

ヨブの示した信仰、忍耐、また、堂々とした姿勢で、彼と同じような痛み、苦しみ、喪失感、不当な批判、見捨てられる経験に耐えることのできる人は殆どいないでしょう。

そのような経験をするとき、私たちは「なぜ私なのか」と神を責めてしまうのではないのでしょうか。意気消沈し、信仰と希望を失い、ついには困難に立ち向かう事を諦めてしまうでしょう。

励ましと愛と信仰のことばを語れることを、習慣として身に付けることで、将来のいかなる困難にも立ち向かう事ができるよう備えをし、私たちを挫こうとする一切のものを払い除けることができるはずです。

「峠の我が家」という詩集の一節をご存知ですか。そこにはこのようなフレーズがあります。「落胆の言葉は聞かれ、空は一日中雲一つなく晴れ渡る。」

励ましは魂への酸素である。

——George・M・Adams

讃美歌 501

祈　り 天のお父様。他の人たちに励ましと愛と信仰の言葉を語らせてください。それによって、彼ら自身も、その言葉を聞く他の人や私に、忍耐する力を与える者となりますように。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

エドワード・L・カーク 2001

5月18日(金)

幼　子　の　よ　う　な　神　へ　の　信　仰

聖書朗読 詩篇 131編

まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。 マタイ 18：3

詩篇131編は詩篇の中でも短い一篇の一つですが、美しい表現で描かれ、信仰を奮いたたせてくださるみことばが語られています。ここでは神様に対する幼子のような信仰について書かれていますが、マタイ18：3にあるように、これはイエス様が語られたことです。

ここには3つの性質が書かれています。それらは、救い主イエス・キリストを通して神を信ずる人すべてが持つべき性質です。1つ目は、謙遜であること。詩篇の著者は、『私の心は誇らず、私の目は高ぶりません。』（1節）と語っており、忠実なクリスチャンはみな、ヤコブ4：10の『主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。』というみことばを守ります。2つ目は、平和。詩篇の著者は、心穏やかであることを喜んでいます（2節）。クリスチャンは、ピリピ4：7にある『人のすべての考えにまさる』神の平安を得ることができます。3つめは希望です。詩篇の著者は、永遠の魂の豊かさについて語っており、神の恵みによりその希望があるとしています（3節）。

忠実なクリスチャンはみな、1ペテロ1：3の『主、イエス・キリストの父なる神が、ほめたたえられますように。』ということばを同じように言い表していくことが出来るでしょう。

神はその大いなる恵みによって、私たちに新たな命を与え、イエス・キリストの死からの蘇りにより、生きる希望を与えてくださり、「朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださった」のです。

讃美歌 460

祈　り 親愛なる父よ。あなた様に対する子どもの様な信仰をもって、あなた様から受け取る様々な恵みを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジェームズ・M・トリー 1971

5月19日(土)

全 能 の 神

聖書朗読 詩篇 150編

私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを超えて豊かに施すことのできる方に、教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。

エペソ 3:20~21

私は、刑務所に収監されている女性たちに聖書を教える機会があったのですが、そのうちの一人に、自分が救われていると思うか、死後天国へ行くと信じているかと尋ねたところ、彼女は「神が私を望んでいるかわからない」と答えました。

私たちを造られたお方に対する私たち人間の信頼というものは、いかに薄いものかと思わされます。ある瞬間、神の全能を率直に認めたとしたら、次の瞬間には、人間の限られた知恵で神を縛ってしまうのです。私たちは嫌なものは愛せない性質を持っているので、神も同じように不快なものは受け入れられないご性質だと考えたり、あるいは、私たちは自分自身の内にある罪を赦せないため、神がそのような私たちを赦されるはずがないと考えたり、あるいは、私たちは自らを救うことは出来ないということを忘れ、同時に神がイエス・キリストによって私たちすべてをお救いくださるということも忘れてしまいます。

私たち限りある存在には、全能のお方である父を完全に理解することは出来ません。けれども、幸いな人というのは、人間には決してまねることの出来ない力や恵みに信頼する信仰を持っている人です。

讃美歌 267

祈り 天のお父様。あなた様の無限の慈しみを、畏れをもって拝します。あなた様の御子がもたらしてくださった恵みを、どうか私たちに受け取らせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジュン・M・ベリー 1968

5月20日(日)

我 が 家 へ

聖書朗読 詩篇 122編

イエスは彼らに言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所ありません。」 ルカ 9:58

西アフリカの国ガーナに赴いて教えた世界聖書クラスは、多忙ではありましたが、実りあるものでした。そのクラスを終え帰郷するとき、故郷へ帰る事の感無量な喜びを実感しました。

空港では、税関の手続きやその他あらゆる事がスムーズに済むかどうか、とても気がかりでしたが、最後の検査を終えて飛行機へ向かうとき、やり遂げたという気持ちで、私は思わず叫び声を上げました。滑走路を歩きながら、後ろを振り返ると、そこには、ガーナの多くの兄弟姉妹たちがわざわざ見送りに来てくれていました。何という愛の賜物でしょう。そして私はアメリカの国旗のついた飛行機へと向かい、故郷への帰途についたのです。

詩篇に記された人々にとってエルサレムは故郷でした。彼らは、平和を求める祈りとその働きには希望があること、そして兄弟姉妹への愛を言い表しています。また、故郷の素晴らしさと、帰郷するときの心躍る気持ちをよく知っていました。

私たちの心のうちに故郷への思いを授けてくださったことを、神に感謝し、神をたたえさせていたしましょう。

従順 それは難しいと感じたり強いられたりするものではなく、
いつでも愛をもって自発的に従う姿勢である。
なすべき役割があれば、ただそれを果たすのではなく
自分の魂が、神の臨在を認め神を言い表すことができるように
役割を果たしなさい。

——Phillips Brooks

讃美歌 517

祈り イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ラリー・ケイン 1985